

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 准教授

氏名： 上野 幸彦

研究課題		現代社会と刑法の課題
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>(1)研究目的 社会におけるICTの高度化は、犯罪現象においてもグローバル化やハイテク化をもたらしている。このような現状を踏まえて、現行法の解釈・適用の限界を明確にするとともに、そのような課題の認識に基づいて、刑事規制の在り方について考察することを目的としていた。</p> <p>(2)研究概要 犯罪現象のグローバル化・ハイテク化に対応して、2000年前後から、国際的にも、サイバー犯罪や組織犯罪の分野において規制の整備が図られた。この国際的な取り組みに対応する形で、日本においても、立法上の整備が推進され、刑法典上の改正や特別法の制定・改正が行われた。こうした立法状況について検討するとともに、従来の規制対象と新規立法の射程とを比較検討しながら、従来の解釈と新規立法との整合性ないし関連性について批判的に考察を行った。</p>
	研究成果	<p>サイバー犯罪関連では、偽造罪に関連づけてデジタルデータを客体として犯罪化が行われたことにより、伝統的な「偽造」「変造」概念の相対化を招いている。このことは、伝統的に物理的な「物」を予定して構築されている刑法の体系の限界を示すものとみられることも可能である。デジタルデータに対する規制や保護の在り方について、著作権法や情報保護等の観点も含めた多角的な検討を踏まえつつ、ネットワークシステムを考慮した新たな考え方を模索する必要がある。とりわけ、ネットバンキング・決済の推進と利用の普及にともない、伝統的な偽造・詐欺という枠組みでの対応で十分であるかどうか、慎重な検討を要する。このほか、組織犯罪処罰法の改正に盛り込まれたテロ等準備罪の適用について、判例が採る共謀共同正犯理論と関連して、今後、解釈上の課題も浮上すると思われる。</p>
研究業績	<p>・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p>	<p>①著書(共著)：上野幸彦・太田茂『刑事法入門』(成文堂・2018年)(1頁～111頁)</p> <p>②著書(共著)：南部篤・設楽裕文編『刑法総論』(弘文堂・2018年)第8章「共犯」(191頁～231頁執筆)</p>
	<p>・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p>	とくになし。
	<p>・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等</p>	とくになし。